

## 平成27年度目標管理シート

【資源循環部長 間野 雅之】

市の目標	将来都市像「人と人 人とみどりが響きあい 笑顔あふれる 東村山」の実現			
部の目標	市民目線のごみ処理の実現			
部の概要	人員	27人	予算規模	2,110,920千円

### 【具体的な取り組み】

No.	課名	総計・行革	項目	どの水準まで	どのような方法で	いつまでに	進捗	成果又は課題
1	ごみ減量推進課	総計	ごみ減量とリサイクル意識の啓発	市民一人あたりのごみ量を665g/人日以下に削減する。 (平成26年度 669g/人日)	一般廃棄物処理基本計画に基づき、各施策に取り組んでいく。	年度末まで	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民一人1日あたりのごみ量を削減すべく市ホームページ、各種パンフレット、啓発機関紙等を通じて、市民や事業者に対し、ごみ減量等に関する適正な情報提供を図るとともに、出前講座や、民間収集運搬業者に対する抜き打ち検査、美住リサイクルショップの活動の充実を図った結果、平成27年度の市民一人1日あたりのごみ量は668g/人日となった。</li> <li>・しかしながら、平成26年度環境省の調査（人口10万人以上50万人未満の部）で、一人1日あたりのごみ排出量全国9位、リサイクル率全国8位という結果だった。</li> </ul>
2	ごみ減量推進課	総計	店頭回収の拡大	一般廃棄物処理基本計画に掲げる平成27年度店頭回収目標値（30店舗）を達成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各店舗や本部を直接訪問し店頭回収の意義等を説明し協力を依頼する。</li> <li>・市ホームページや環境PR紙を通じて実施状況を市民に周知する。</li> </ul>	年度末まで	A	各店舗や本部を直接訪問し店頭回収の意義等を説明し協力を依頼した結果、店頭回収実施店舗数が30店舗となった。

No.	課名	総計・ 行革	項目	どの水準まで	どのような方法で	いつまでに	進捗	成果又は課題
3	ごみ 減量 推進 課	総計	集団資源回収の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般廃棄物処理基本計画に掲げる平成27年度登録団体目標値（140団体）を達成する。</li> <li>アルミ缶の回収量を平成26年度より増加させる。（平成26年度 15,294kg）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物減量等推進員とも連携を図りながら、各種イベントなどを通じて事業のPRに努める。</li> <li>市ホームページや環境PR紙などを通じて事業のPRに努める。</li> </ul>	年度末まで	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会に協力をいただいてチラシを配布したり、ごみ見聞録やホームページなどで周知を図った結果、集団資源回収への参加団体は141団体となった。</li> <li>積極的な周知活動を展開したことで、アルミ缶の回収量は17,496kgとなり、平成26年度実績を上回った。</li> </ul>
4	施設 課	総計	リサイクルセンター整備事業	リサイクルセンター管理棟を完成させる。	工事の進捗管理を適正に行う。	平成27年7月	A	適正な進捗管理を行い、予定内の平成27年6月末に竣工させ、同年8月から運用開始した。
5	施設 課	総計	ごみ処理施設更新の検討	基本方針策定の検討に必要な、今後のごみ処理に関する基礎資料を整理する。	部内に計画推進に関する組織を立ち上げる。	年度末まで	A	これまで収集した情報を基に資源循環部内で検討組織を立ち上げ内容の確認と検討を行い、次年度から実施予定の「ごみ処理施設のあり方検討会」開催に向け一定の準備を整えた。